



鹿児島県労働者共済生活協同組合 全労済九州統括本部鹿児島推進本部 第63回通常総代会および第1回組合員代表者会議を開催



榮留本部長（理事長）

われ、下
表のとお
り新役員
が決定い
たしまし
た。

私たち全労済鹿児島は、地域に根ざした社会貢献活動を進めるとともに、「たすけあいの全労済」として、なお一層、組合員・協力団体の皆さんに安心を与え、信頼されるよう役職員一丸となつて取り組んでまいります。

今後とも、これまでどおりのご協力と議開催のあいさつといたします。

回全労済九州統括本部鹿児島
推進本部組合員代表者会議
を7月27日（金）にマリンパレ
スかごしまで開催しました。

当日は、書面議決・委任を
含め、198人の総代のもと、
精野総代と山下総代を議長団
に選出し、榮留本部長（理事長）
挨拶の後、2017年度推進活
動報告、2018年度推進活
動計画などの議案審議をおこ
ない、各議案とも満場一致で承
認を受けました。また、役員欠
員とともになう役員補欠選挙の

回全労済九州統括本部鹿児島推進本部組合員代表者会議を7月27日（金）にマリンパレスかごしまで開催しました。

当日は、書面議決・委任を含め、198人の総代のもと、精野総代と山下総代を議長団に選出し、築留本部長（理事長）挨拶の後、2017年度推進活動報告、2018年度推進活動計画などの議案審議をおこない、各議案とも満場一致で承認を受けました。

「鹿児島県労済生協第63回通常総代会」ならびに「第1

かごしま
労働者福祉だより

第693号

〔発行所〕

(一社)鹿児島県労働者福祉協議会
〒890-0064
鹿児島市鴨池新町5-7-603
☎099-254-3832

〔発行人〕
榮留 道夫

[印 刷]
南日本新聞開発センター

[編集]
県労福協、連合鹿児島
九州労金、全労済、生協連
☆労福協だより

毎月15日に更新!!

【全労済鹿児島推進本部 榮留本部長あいさつ】

鹿児島県労働者共済生活協同組合の役員は、全労済鹿児島推進本部の役員を兼務することとなっています。
※「理事長」→「本部長」「事務理事」→「事務局長」「理事・監事」→「代表委員」を兼務。

▼お盆を過ぎ夏休みも終盤戦。今的孩子もたちは、何をして過ごしているのかなあ」とふとと思う。ラジオ体操・部活動・夏祭り・六月灯・家族旅行などは『定番』で、休みが終わりに近づけば、宿題など、ぎりぎりまで追われていたことを思い返す▼年に1回の子どもにとって楽しく、有意義な思い出になつて欲しい。その『超大型』の夏休みが『大型』に変わろうとしている▼ゆとり教育の見直しや小学校での英語授業導入などによる授業時間の確保で、短縮しようという動きがある。共働きやひとり家庭が増えている現状などを考えれば、それもあり」なのかもしれない▼だが、「超大型」が定着した社会、「千年酷暑」の時代にそう簡単に短縮できるのか。社会問題になつてゐる先生の長時間労働も短縮することで解決できるのか▼子どもたちにとっての本来の夏休みの意義を社会全体で真剣に考えるべき時期が来ているようだ。ともあれ、残りわずか。宿題の追い込み、頑張れ！ 子どもたち。



受賞団体代表と審査委員



鹿児島大学生による移動式カフェ YOUTH SENSE COFFEE

今回で第15回目となる「鹿児島地区NPO助成フォーラム」を7月28日(土)、九州労働金庫鹿児島支店5階大ホールで開催しました。フォーラムには、助成9団体と申請団体1団体、来賓・審査委員・ろうきん職員、合わせて48人の関係者が集まり、総額210万円が贈呈されました。

当日は、開式前に約30分程度の「名刺交換会」が設けられ、参加者同士の親睦・交流を深めました。開会に際し、主催者を

A black and white photograph of a man in a dark suit and glasses, seated in a simple wooden chair. He is holding a white rectangular piece of paper, possibly a business card or a document, in his hands. The background is a plain, light-colored wall with some vertical lines, suggesting an indoor office or meeting room setting.

代表して森田県本部長のあいさつの後、平井一臣審査委員長より、「NPOの活動領域が広範開に渡っている。時代の変化・時代の課題、行政ではなかなかすぐには手が回らないこと、でも人々が何とかしたいと思つてはいる課題をNPOの活動が反映している。児童虐待、痛ましい出来事、子どもの問題・子どもが生きにくく、子どもにとつて過酷な社会にある中、子どもに関する問題に直接・間接的に向き合う活動が比較的多かつた。災害などで、子どもだけでなく高齢者・障がい者が大きな負荷を被る現実があり、負担の大きさ、自己解決・自助

努力ではなく社会的に考え、解決していく必要性、地域・集落の力が無いと、災害の回避や災害後の取り組みも難しい。NPOは社会の毛細血管に当たるところ。「一人ひとりの知恵と力を出し合いながら社会の問題や課題を解決していく、行政とも一緒に協力しながら社会を支える運動。今後も活動を充実させ、社会を生き活きとしたものにしていただきたい」と講評を受けました。

その後、目録贈呈や記念撮影が行われ、今回助成された団体の紹介と活動内容、助成金の活用方針などの報告を受けました。

また、当日配布された資料では昨

第15回「鹿児島地区NPO助成フォーラム」を開催 9団体へ210万円を贈呈



出水支店・大口支店友の会交流

グラウンド ゴルフ大会を 開催しました



挨拶する上脇事務局長（右から3人目）と、森田県本部長（左から2人目）

ここ最近の異常気象で熱中症も心配されましたが、心配ご無用とばかりに参加者が一同、終日大いに楽しむことができました。来年の大口支部の主催での開催を確認し、閉会となりました。

この交流会は「近隣支部の会員相互の交流を深める」目的で毎年開催しており、今年で3回目の開催となりました。当日は、最高の芝の状態で、天候にも恵まれ絶好のGGコンディションでした。好プレーやホールインワンが数多く出るなど成績も上々。終了後は、懇親会も開催され、プレーの反省やお互いの近況報告、カラオケなどで大いに盛り上がりまし

7月20日(金)、出水駅東口広場において出水支店友の会24人、大口支店友の会21人の計45人の参加の下開催されました。

優勝	準優勝	倉本	山之上	守
(大口支部)	(出水支部)	幸彦		
功英				
(大口支部)				

第2回鹿児島県本部推進委員会を開催

第2回鹿児島県本部推進委員会が7月23日(月)、九州労働金庫鹿児島県本部3階大会議室で県本部推進委員4人、支店・地域推進委員17人全員が参加する中、開催されました。

会議では、①推進委員会の経過、②6月末概況及び重点課題の取り組み状況、③ツカツカ(つかえる)拡大キャンペーン、④個人型DCの推進、⑤各種キャンペーン、⑥2018年度「推進活動強化費」について協議を行いました。

鎌田副推進委員長の開会あいさつ後、石田県本部推進委員長が議長に就任し、その後、森田県本部長・谷村専務理事のあいさつを受け議事に入りました。

質疑では①4月から取り組まれている奨学金借換専用ローン

「つなぐ」の反響・反応・問い合わせはどういう状況か、②支店イベントの企画・開催に向けて「各支店の取り組みの共有化」など意見が出され、9月末に向けた各種キャンペーンの推進と個人型DCの取り組み等の全議案が全体で確認されました。

DCの取り組み等の全議案が全體で確認されました。



2019年度財形制度改善要望事項

(魅力ある財形制度とするために以下の改善を行うこと。)

1. 財形貯蓄制度の導入促進

2. 資産形成の手段が多様化する中、特に「職場つみたてNISA」については、自助努力による安定的な資産形成を促進する福利厚生制度の1つとして注目されている。そうした中であっても、財形貯蓄制度が引き続き勤労者にとって有用な資産形成の手段のひとつであることを対外的にアピールし、役割を明確化する取組を行うこと。

3. 非正規雇用労働者の福利厚生の均等・均衡待遇の確保の観点から、非正規雇用労働者が財形貯蓄制度を利用しやすいように対策を講ずること。

4. 財形年金貯蓄及び財形住宅貯蓄の非課税限度額を、1,000万円に引き上げること。

5. 60歳以降の雇用継続等高齢者の雇用実態に合わせ、非課税財形(住宅・年金)契約時の年齢を撤廃または引き上げること。

6. バリアフリー回収促進税制、省エネ改修促進税制に合わせ、財形住宅貯蓄の増改築等における適格払出しのバリアフリー改修、万円超を50万円超にすること。

7. 勤務先の都合により離職した失業者に対しても、非課税適用継続期間の延長と非課税財形を払い・解約する際の適格払出しの要件を緩和すること。

8. 介護に係る非課税財形の払出し時の利子等を非課税とし遡及課税しない扱いとすること。

(事務手続きの改善を行うこと。)

1. 事業主の都合により勤務先異動申告書の提出が必要な時は一括作成ができるようになること。

厚生労働大臣あてに「要望書」 財形制度改善に向けた「ろうきん」の取り組み

<全労済わくわくフェスタ in 鹿児島>

- ◆開催日時／2018年2月12日(月・祝日)
10時～14時
- ◆場 所／全労済鹿児島推進本部会館
- ◆来場者数／約150名

<全労済わくわくフェスタ in 鹿屋>

- ◆開催日時／2018年2月17日(土)
10時～14時
- ◆場 所／共済ショップぐりんぼう鹿屋店
- ◆来場者数／約200名

<エフエムあまみラジオ特別番組放送>

- ◆放送日／2018年5月14日(月)～19日(土)
- ◆内 容／特別番組を編成し、共済商品をPR



2014年度～2017年度中期経営政策「Zetwork-60」の最終年度、「全労済創立60周年」「ぐりんぼう鹿児島・鹿屋・奄美開店10周年」の年度であることをふまえ、2017年9月の組織改革による内部基盤の強化を活かし、最重要目標である「事業の回復」「安定的事業基盤の確立」を果たしたうえで、さらなる労働者自主福祉運動の発展と地域貢献をめざして活動を展開しました。

■事業の概況

最重点共済である自賠責共済を中心として、重点共済である住まいの（火災・自然災害）共済、団体生命共済、マイカー共済を協力団体・居住域・共済代理店をとおして、推進強化を図り、前年度に続き、口数が純増となりました。

■共済ショップぐりんぼう鹿児島・鹿屋・奄美店開店10周年の取り組みについて

「共済ショップぐりんぼう鹿児島・鹿屋・奄美店の開店10周年」を記念して、2月12日（月・祝）に「全労済わくわくフェスタ in 鹿児島」と2月17日（土）に「全労済わくわくフェスタ in 鹿屋」を開催し、多くの方にご来場いただきました。また、5月14日～19日の6日間にかけて、ぐりんぼう奄美の紹介と共に商品のPRとして、エフエムあまみラジオ特別番組を放送しました。

報告 第1回全労済九州統括本部 鹿児島推進本部 組合員代表者会議

【2018年度 全労済鹿児島推進本部 基本方針】

- ① 組合員とのつながりを「より深く、より長く」することをめざし組合員と向き合うすべての場面で「お役立ち発想」と「共創活動」を事務局全体で取り組みます。
- ② 事業の維持・拡大をめざし、2018年度の最重点共済を「自賠責共済」、重点共済を「団体生命共済」「住まいの共済（火災共済・自然災害共済）」「マイカー共済」「こくみん共済」とします。
- ③ マイカー共済の商品改定（2019年1月）を契機として既加入者への丁寧な対応と加入拡大にむけた積極的な推進活動を展開します。
- ④ 中期経営政策「New-Zetwork」（2018年～2021年）の初年度として連合、労福協、労働金庫、推進本部推進機構と連携し労働者自主福祉運動のさらなる発展に努めます。



表彰された各部門1位の団体代表者

3回 鹿児島県労働者共済生活協同組合 通常総代
回 全労済九州統括本部鹿児島推進本部 組合員代表者会
島推進本部2017年度共済活動表彰
が行われ、榮留本部長より各部門1位の
協力団体へ賞状と副賞の贈呈を行いました。
なお、表彰は「全労済鹿児島推進本部
共済活動表彰基準」にもとづいて順位を
決定しています。新規契約件数・契約率
の部は2017年度の新規契約件数と当
該協力団体の組織人員にもとづき決定し
ています。また、生活保障設計運動の部
は、2018年度の各協力団体における
各種共済活動を共済活動表彰基準別表に
もとづき集計し、選考しています。
2018年度においても協力団体の表
彰を予定していますので、引き続きご協
力をお願いします。

報告

2017年度

共済活動表彰について

住まいの共済 (火災共済)	新規契約 件数の部		新規契約 契約率の部	
	1位	鹿児島県職員労働組合	1位	いわさきバス労働組合
	2位	南国交通労働組合	2位	南日本総合サービス互助会
住まいの共済 (自然災害共済)	新規契約 件数の部		新規契約 契約率の部	
	1位	鹿児島日産自動車労組	1位	全日通労働組合鹿児島県支部
	2位	鹿児島市職員労働組合	2位	喜界町職員組合
マイカー共済	新規契約 件数の部		新規契約 契約率の部	
	1位	私鉄鹿児島交通労働組合	1位	土佐屋労働組合
	2位	鹿児島県建設技能者組合	2位	日本放送協会集金労働組合 鹿児島支部
自賠責共済	新規契約 件数の部		新規契約 契約率の部	
	1位	鹿児島県職員退職者会	1位	生和糖業労働組合
	2位	奄美市職員労働組合	2位	富国製糖労働組合
団体生命共済	純増口数表彰			
	1位	大口電子労働組合		
	2位	鹿児島トヨタ労働組合		
生活保障設計 運動表彰	1位	屋久島電工労働組合		
	2位	京セラ労働組合(国分支部・川内支部・隼人支部)		
	3位	日本特殊陶業労働組合		

共済金 支払状況(全国)

2018年7月31日時点

	被災受付件数	支払完了件数	支払金額
火災共済		852	766,063,764円
自然災害共済		546	1,755,861,217円
慶弔共済		32	1,360,600円
合計	5,323	1,430	2,523,285,581円

共済金 支払状況(鹿児島県)

2018年7月31日時点

	被災受付件数	支払完了件数	支払金額
火災共游		16	988,750円
自然災害共游	60	10	1,676,400円
合計		26	2,665,150円

2018年7月に発生した西日本豪雨・台風7号の影響により、西日本の広範囲で多くの被害が発生しました。
2018年7月31日時点で鹿児島県内の被災受付件数は60件、共済金支払金額は266万5,150円となっています。また全国では、2018年7月31日時点での被災受付件数が5,323件、共済金支払金額は25億2,328万5,581円となっています。
今後も迅速な被災者対応と一日も早い共済金支払いに努めてまいります。

西日本豪雨・台風7号の災害対応について



紀元杉の前で記念撮影



ヤクシカの出現

2日目は「もののけ姫」のイメージのベースとなつた白谷雲水峡の幽玄な世界を感じながら原生的な森林を散策（ややハードなコース）。その後、標高1200mに広がる仏陀杉・双子杉といった巨木やくぐり杉などユニークな名

安息の地に繋がつてゐるものと思うことでした。



永田いなか浜で「海がめ」の産卵や生態について説明される津曲さん

逆走（迷走）台風一過の8月3日（金）から5日（日）の日程で、鹿児島県労働者福祉協議会では、「世界自然遺産の屋久島の自然を体感する」「自然環境保護の重要性と課題を学ぶ」ことを目的に、親子ふれあい講座を開催しました。

講座には、9家族31人（大人15人、子ども16人）が参加。1日目は屋久島環境文化村

センターで屋久島全体の説明やNPO法人屋久島エコフェスタの自然環境を守る活動報告、永田いなか浜でのうみがめ講座を受け、自然の壮大さを感じながらも、一方で自然

屋久島の奥岳から運ばれてくる風化花こう岩の白砂という自然の営みと地域の継続したウミガメ保護活動、浜の環境保護・環境教育の努力の積み重ねが、ウミガメにとつて安息の地に繋がつてゐるものと思うことでした。

を持つヤクスギを鑑賞できるヤクスギランドを散策し、推定樹齢3千年といわれる屋久島の代表的な杉、紀元杉を見学。樹高19.5メートル、胸周囲8.1メートルという紀元杉にはヒノキ、シャクナゲなどの中にも見る者を圧倒するような厳肅さもありました。その後は、平成17年の大雪で折れた縄文杉の枝（いのちの枝と名付けられた）を展示している屋久杉自然館へ。そこでは、屋久杉の長生きの秘密や人の関わり、貴重な林

楽しいパソコン教室のご案内

(鹿児島地区)

開催日: 2018年10月13日(土)

ワード入門(初級) Excel入門(初級)

10月14日(日)

ワード入門(実務編) Excel入門(実務編)

会場: アエールプラザ(鹿児島市中央町22-16-4F)

定員: 各日15人(先着順)

開催時間: 10時~16時(休憩60分/各自昼食)

(鹿屋地区)

開催日: 2018年10月27日(土)

オリジナルのフォトアルバムを作ろう!
~パワーポイント編~

10月28日(日)

年賀状を作ろう! ~ワード編~

会場: リナシティかのや情報プラザ1Fパソコン学習室
(鹿屋市大手町1番1号)

定員: 各日15人(先着順)

開催時間: 10時~15時(休憩60分/各自昼食)

問い合わせ先

(一社)鹿児島県労働者福祉協議会

☎099-254-3832(平日9時~17時)



屋久杉自然館で勉強中

業の映像、屋久島の動植物の情報と展示・映像を楽しみました。最後は武田館(もともとは切り出した屋久杉を山から里におろす会社だったらしく)で熟練の職人技から創り出される屋久杉工芸品を見ながらの買い物となりました。

最終日はまず、巨大な花こう岩と壮大なV字谷、落差約60メートルという千尋(せんぴろ)の滝の迫力を満喫し、NHKの朝ドラ「まんてん」のロケ地となつた中間川河

2018年度「次世代人材育成研修会」

青年層を中心に「労働運動」「労働者自主福祉運動」に対する理解や関心を高める活動の一環として次世代を担う「人材育成研修」を開催します。

開催日: 2018年9月1日(土) 14時~17時30分

会場: パレスイン鹿児島

(鹿児島市樋之口町8-2)

講演: 多重債務者対策と自殺防止対策について

研修: ◆連合鹿児島「非正規労働センター」の設置目的と今後の活動について

◆九州労金・労働者自主福祉事業について

◆全労済・・・〃

◆労福協・・・労福協活動について

※構成組織を通じて申し込みをお願いします。



「日本の滝百選」大川(おおこ)の滝で みなさん笑顔で「はいチーズ」

その後、屋久島の滝では最大規模を誇り、「日本の滝百選」にも選ばれている大川(おおこ)の滝へ。九州一の高さ88メートルから豪快な水しぶきをあげて滑り落ちる様に改めで自然の偉大さ・懐の深さを感じることでした。

最後に安房港近くのれんが屋で昼食も兼ねたバーベキューを楽しみ、高速船で樂しい思い出と自然のありがたり、心が洗われた気持ちでした。



白谷雲水峡「がんばって!」

リソースを見つけるた
めのため、その人のリ
ソースを再発見し、有効
活用できるように手助け
します。

⑫リソース発見 悩みを解決!

リソースとは、資金や人間、場所、物品など、さまざまな「資源」のこと。心理学では、心の健康の維持や目標を達成するための資源——人が持つ力や長所、特技、好きなもの、趣味、家族・友人など——がリソースです。多くの人が自分のリソースに気付かず、欠点や足りない部分ばかりに注目して落ち込み、自信を持てずにいます。カウンセリングでは問題の解決のため、その人のリソースを再発見し、有効活用できるように手助けします。

声から読む者
229

労福協だより691号の「噴火口」の記事のような経験があります。うれしいような、年取った自分が残念なような、複雑な気持でした。今後の社会を担う彼女のような優しい気持ちの方がまだまだたくさんいると思いません。素直に「ありがとう」と言えるばあちゃんになれるようにと

(指宿市・女性)

九州ろうきんを子どもの仕送りを利用しておられます。とても便利で助かっております。

(出水市・女性)

4月から新規採用で入職しました。ろうきんや共済、さまざまな情報を取り入れて少しでも詳しくなれるようになら

りました。ろうきんや共済、さまで詳しくなれるようになら

前向きに生きるコツ

新しいビジネス用語から学ぶ心理学

臨床心理士 山藤奈穂子

め次のような質問をします。

- ①子どもや学生の頃、人よりもうまくできることは?
- ②時間を忘れて熱中できることは何ですか? 昔は何に熱中していましたか?
- ③力になつてあげたいと思う人はだれですか?
- ④愚痴を言える人は?
- ⑤お金をかけてもいいと思う趣味や楽しみは?
- ⑥好きな食べ物や本、映画、ゲーム、サイトは?

この答えをリソースと捉え、問題解決のために活用できないかを考えます。

例えば、朝起きられず遅刻が多いという悩みには、15分早めに家を出て、目的地近くのコーヒーショップで、大好きな飲み物を楽しむことだけをまず考えて起きるように助言します。

好きなもののためには脳が活性化するので、それをリソースとして利用するのです。誰もが多くのリソースを持っていています。リソースは宝の地図です。あなたもぜひ活用し、応用してみてください。



健康で文化的な最低限度の生活

7月スタートのテレビドラマ。生活保護がテーマです。主人公は自治体福祉事務所に就職した新人ケースワーカーの義経えみる。「公務員の給与は田税」「保護受給者でも、働く者は就労させろ」という上司に口惑いながら、さまざまな生活保護受給者のために奮闘する様子が描かれます。出演者は吉岡里帆さん、井浦新さん、川菜李奈さん(元AKB48)ら。

原作は、週刊漫画誌で連載中の柏木ハル「さんの同名作品。現職ケースワーカーへの取材に



に基づいた物語は2014年の連載開始時から話題を呼びました。DVDやアルコール依存、多重債務、不正受給の問題も取り上げられています。

(指宿市・女性)

(霧島市・男性)

(出水郡・男性)



講師を囲んで

講師の薩摩川内市「珈琲俱楽部 船倉」の船倉美千代オーナーから、コーヒー豆の産地や種類、産地から日本に届くまでの過程について説明がありました。また、色々なコーヒーの淹れ方についても学び、船倉さんは「愛と感謝」を一緒にいれていることなど、言葉が持つ力についても教えていただきました。

ゆっくりゆっくり、お湯の太さを一定に、できるだけ豆に衝撃を与えないようにとの説明を受けていました。

地域労福協支援事業で構成される、自主福祉事業については、南薩地域4ブロック全てにおいて、

講師の薩摩川内市「珈琲俱楽部 船倉」の船倉美千代オーナーから、コーヒー豆の産地や種類、産地から日本に届くまでの過程について説明がありました。また、色々なコーヒーの淹れ方についても学び、船倉さんは「愛と感謝」を一緒にいれていることなど、言葉が持つ力についても教えていただきました。

ゆっくりゆっくり、お湯の太さを一定に、できるだけ豆に衝撃を与えないようにとの説明を受けていました。

女性委員会主催・北薩地域労福協共催で「珈琲教室」を6月17日(日)、薩摩川内市「国際交流センター」調理研修室で開催しました。参加者は、子ども1人を含めて30人。

こんなに個性が出るなんて! 北薩地域労福協

けて実践するものの、それぞれ個性が出て、お互いに味比べをしたこと驚きました。自分で心を込めていたコーヒーとケーキを味わい、参加者からは、感想や質問も多く出され、楽しい中で終りました。

第17回南薩定期総会 南薩地域労福協

南薩地域労働者福祉協議会は、定期総会を7月20日、南さつま市で開催しました。

総会では冒頭、松田南薩地域労福協会長のあいさつの後、県労福協畠中専務理事、諏訪南さつま市議の来賓挨拶を受け、議事について協議しました。

2017年度の活動経過・収支決算の承認後、「給付型奨学生制度の拡充に向けた取り組み」、「防災・減災の取り組み」並びに「労働者福祉運動の基盤強化」などについては、県労福協と協同して取り組むこと、自主福祉事業について、南薩地域全地域で、積極的に取り組むことを柱とする

2018年度活動計画(案)・収支予算(案)を全会一致で承認しました。

中でも、労働者福祉促進事業、地域労福協支援事業で構成される、自主福祉事業については、南薩地域4ブロック全てにおいて、

第26回大隅地域労福協定期総会 大隅地域労福協

第26回大隅地域労福協定期総会を7月25日(水)、ホテル大藏で開催しました。吉見会長のあいさつの後、県労福協畠中専務理事、西生剛大隅地域振興局総務企画部長、前野義春鹿児島県議会議員よりあいさつがありました。

その後、2017年度の活動・経過報告、2018年度の活動方針について提案・了承されました。これまで取り組んできた奨学生問題について、給付型奨学生が導入されたが、まだまだ不十分であり今後も引き続き取り組んでいくことが確認されました。最後

奄美地域労福協は7月28日、夏空の下、天城町サンセットビーチで約100人の会員ファミリーが参加して、BBQやマリンスポーツを楽しむ「思いっきり海遊びDay」を開催しました。

子どもたちの夏休みの思い出として企画したイベントに親も負けじとバナナボートやジェットバイクに大はしゃぎをした後、準備したかき氷で体を冷やしている姿は南国の夏そのものでした。

テントの下でビール片手に焼き肉を頬張りながら交流をした後は、西の海に沈む夕日をバック



第17回南薩定期総会



あいさつする吉見会長

奄美地域労福協「徳之島ブロック」「夏休み～思いっきり海遊びDay」



早く遊びたい!!

「1事業+α」を合言葉に複数事業に取り組むことを本年度の必須事項として活動していきます。

に九州ろうきん、全労済から各種取り組みと商品説明などがあり、さらなる連携も確認されました。

炎天下の中のテント張りや火おこし、そして最後の片付けまで多くの参加者に協力していただき、「汗たっぷり笑顔いっぱい」のイベントになりました。

に家族写真を撮る家族も見られ、思い出に残る日になったのではないかと思います。

おこし、そして最後の片付けまで多くの参加者に協力していただき、「汗たっぷり笑顔いっぱい」のイベントになりました。

新理事長 榎留道夫	新副理事長 森田周一
就任日 7月18日(水)	【第2回理事会】

